2026/11/24

＜白金標準、需給を無視した価格は反動が強くなる・・＞



（出所：オアシス）

WPIC 第 3 四半期 PGM 需給報告では、2026 年は 15 トンの供給過剰を予測するも 2027 年には 9 トンの供給不足を予測するなど、2027 年は投資資金の流入回帰で地金やコインの需要が 55%増の 14 トン拡大すると示している。また地上在庫は 2027 年末の時点で需要の 3 ヶ月分をわずかに下回る 56 トンに減少を示し、WPIC のリサーチディレクターは 2025 年 5 月同様に「地上在庫が依然として極度に逼迫しているという事実は、もし 2027 年に投資需要の回復が見られれば、非常に短期間で厳しい市場環境への再帰が見込める可能性があるということです」と発言している。特に 2027 年は 5 年ぶりに南アフリカの主要プラチナ鉱山で賃金交渉が行われる年でもあり、年明け 1 月から交渉が開始され、7 月の契約期限までに交渉が終了できるか注目され、また原油高で南アフリカのインフレ率を引き上げており、大幅な賃金引き上げの要因となり、また鉱山コスト高にも結び付くなど、交渉の混乱は価格上昇の要因になるだけに、2027 年は価格上昇が期待できる年になる可能性は高いと思える。その意味から現在の 6200 円台は、ロングポジションのエントリーチャンスが膨らんでいる状況であり、「ピンチこそチャンスなり」の対応が妥当に思える。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では MACD が下げながら、シグナルも下げている。RCI では短期が-100%で維持し、長期は横ばいした動きを見せている。特に指数平滑移動平均線のレンジが下向きのままであり、下げ止まりを待つ動きに思える。

2026/11/24

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,150,000 円（2026 年 11 月 24 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 77,660 円（2026 年 11 月 24 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-5540-8423 （受付時間：平日 8:30～17:30）

証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp